WE^{LOV®}東村山プラン



Danke schön





Salamat





『ありがとう』 言って言われる東村山

谢谢

dhanyabaad

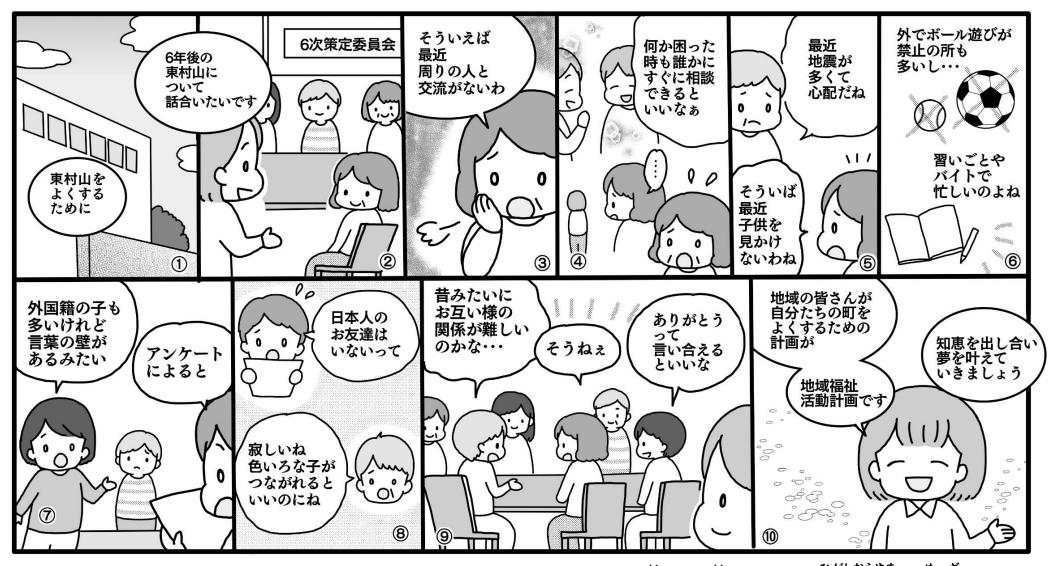




감사합니다

東村山市第6次地域福祉活動計画 (2024~2029)





「ありがとう」言って言われる 東村山を目指します

SDGsは、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指す世界共通の目標です。 各取組みの紹介ページで、目標に関連するアイコンを表示しています。



(目次)

〇地域福祉活動計画とは?・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ /	РΙ
〇今までの地域福祉活動計画から、第6次地域福祉活動計画へのつながり········· I	P2
O策定委員長あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ l	Р3
○『ありがとう 言って言われる 東村山』4 つの取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P4
(1) 地域活動で、子ども・若者がメリット・やりがいを感じられる仕組みをつくる	
(2) 子ども・若者が主体となって 防災・防犯について考え、発信する	
(3) 子どもや若者が関わり、国籍が違っても、障がいがあっても、みんながほっとできる居場所をつくる	
(4)「共感から行動へ ありがとうの輪を広げる」取り組み	
	P20
	P2 I
O資料編 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	P22
(I) わたしたちの東村山	
(2) 子ども・若者アンケート「教えて!東村山をよくするために」	
(3) 第6次地域福祉活動計画策定委員名簿	

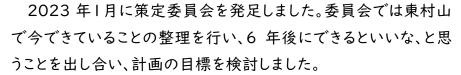
地域福祉活動計画とは?

地域で暮らす人たちが自分たちの生活の困りごとや生活に 望むことに気づき、課題の解決や望むことを達成できるように進 めるための計画です。

市内の様々な人たちと連携し、社会資源の活用や開発等を行いながら取り組みを進めていきます。第1次地域福祉活動計画(1994年~)から始まり、今回が第6次の計画となります。東村山市社会福祉協議会が計画策定の事務局を担っています。

6年後、こんな東村山市にしたい

~第6次地域福祉活動計画~



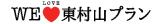
目標達成のためにどんな活動をしたら良いか、「できるといいな」を課題毎にまとめたところ、東村山の良さを活かしたつながりを目指すことになりました。第 5 次計画での課題を意識しながら、「対象とテーマ」を掛け合わせることで生まれる変化や効果を計画の軸として考えました。

子ども・若者×〇〇

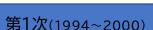
策定委員会での意見をまとめていくと、子ども・若者に対する視点が多いことに気が付きました。若い世代の人たちがまちづくりに関われることで、周囲の大人も巻き込み、これからの東村山を作ることができるのでは、となりました。そして関係性を表せる言葉として「ありがとう」が出されました。誰もが使うコトバで、「ありがとう」と言い合えるにはお互いの関係性がないと使われず、活動から「ありがとう」と言う、言われる関係を目指そうとなりました。

計画の理念 「わたしがつくる みんなでつくる つながり支えあうまち」

6年後の目標 『ありがとう』 言って言われる 東村山



今までの地域福祉活動計画から、第6次地域福祉活動計画へのつながり



第2次(2001~2005)

第3次(2006~2011)

第4次(2012~2017)

第5次(2018~2023)



- ・ボランティアセンター誕生
- ・福祉マップの作成 など



- ・福祉のまちづくりワーキング グループの設立
- ・福祉情報のアンテナ拠点「福祉協力店」の設置など



- ・地域福祉懇談会の開催
- ・「東村山災害スタボラ会」 誕生 など



・地域懇談会の定着化

など



WE[₩]東村山プラン

WE♥東村山プラン

4つの重点アクションに取り組みました

全町に『あいさつ + ひと言運動』を進めます

青葉町、恩多町、野口町、萩山町、富士見町では、実行委員 会等を設立して、あいさつ運動を展開しました。

全町での取り組みは出来ませんでしたが、5次計画終了後もまちの活動として実施、推進していきます。



『町なか護美プロジェクト』を進めます

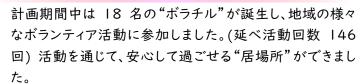




2021年10月から始まった「#護美プロジェクト」は、 延べ50回、約630名が参加。清掃活動を通じて、町 への関心や愛着が持てる活動となりました。

計画終了後も、気軽にできる地域活動として推進していきます。

『子ども協力員』の検討・募集をはじめます



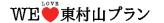
今後は、「ボラチル」の愛称を継続し、小・中学生ボランティア活動の支援を行います。



それぞれの人に合った"行きたくなる場所&場"づくりを進めます

「サロン同士の交流」「居場所の情報集約・共有」「常設型の居場所の検討」を目的としていましが、2020年の新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの地域活動がストップしました。そのような中でも、人との繋がりを絶やさない地域の皆様の知恵や工夫をアンケートで伺い、「コロナ禍でも人と繋がるヒントブック」を作成しました。

「ひとりじゃない」を感じられる場所や場づくりを進めていきます。





策定委員長あいさつ

(東京都立大学 准教授 室田信一氏)

この度、策定委員の皆さんをはじめ市民の皆さまと議論を積み重ね、東村山市第6次地域福祉活動計画が完成しました。市民の皆さまにこうしてお届けできること、大変嬉しく思います。かつて見たことがない唯一無二の活動計画ができたのではないかと自負しております。

2000 年ごろから日本全国で地方分権化が推進されてきました。 地域福祉計画(※)や地域福祉活動計画は、まさに自治体の福祉のあり 方に対して、住民が参画し、行政や福祉の専門機関など関係者ととも に検討するという意味において、地方自治を象徴する取り組みです。

私は今回、初めて東村山市社協の活動計画の策定に関わらせていただきました。以前から第5次計画の内容に関して注目しており、その独自性や実効性の高さを参考にしてきましたが、今回の第6次の活動計画の内容は、これまでの東村山市内の取り組みをさらに一歩先に進めるような、東村山市民の想いとこだわりが詰まった活動計画になったと思います。

計画に目を通して、おもしろそう! 何か一緒にできそう! と思っていただける市民の方とともに計画を推進していくことを期待しています。 どうぞよろしくお願いします。 ※地域福祉計画とは、福祉分野に関する行政計画です

第6次地域福祉活動計画 4つの取り組み

子ども・若者×「活躍」

地域活動で、子ども・若者がメリット・やりがいを 感じられる仕組みをつくる

子ども・若者×「防災・防犯」

子ども・若者が主体となって 防災・防犯について考え、 発信する

子ども・若者×「居場所・交流」

子どもや若者が関わり、国籍が違っても、障がいがあっても みんながほっとできる居場所をつくる

広報·活動支援

「共感から行動へ ありがとうの輪を広げる」取り組み

次のページから 6 次計画の内容を 紹介するよ



第6次 (2024~2029)

WE

●
東村山プラン







活躍できるには

どうしたらいいかな?











私たちの「今」と「なりたい姿」

■私たちの「今」

地域活動にメリットを感じにくい

子どもや若者は日々の生活の中で他者・多世代の困りごとに 直面することが少ない

勉強や部活、習い事で忙しい

子どもや若者も忙しい。個人だけではなく部活や習い事などの 集団単位で気軽に参加できる機会が少ない 〇〇〇

キーマンに頼れない

子どもや若者→進学、先生→異動、などによる環境の変化が 多く、大人だけの活動と違い、参加の仕方が流動的 📿 🦳

地域活動を知らないから関心を持ちづらい

子どもや若者は地域活動に参加する機会が少なく、大人が何に 困っているのかわかりづらい (2)

活動をそのまま引き継ぐのは負担が大きい

地域活動は高齢化し担い手不足。しかし、今大人がやっている 活動をそのまま引き継ぐことは、子どもや若者は押しつけに感じ てしまう

こんなことを考えました



■私たちの目指す「6年後」

主体的・自発的に考え、地域で活躍できる



メリット・やりがいを感じるだけでなく、「○○だから」「○○のために」と、活動したいと思える理由がある

いろいろな世代の人と地域でつながり活躍できる



小さな子どもから大人まで、多世代で楽しめる·交流できる場がある

継続性があり、次の代へ伝承していける



時代に合った、その時々の続けられるものを、押しつけではない 形で続けていける

子ども・若者 🗙 「活躍」

地域活動で、子ども・若者がメリット・やりがいを感じられる仕組みをつくる







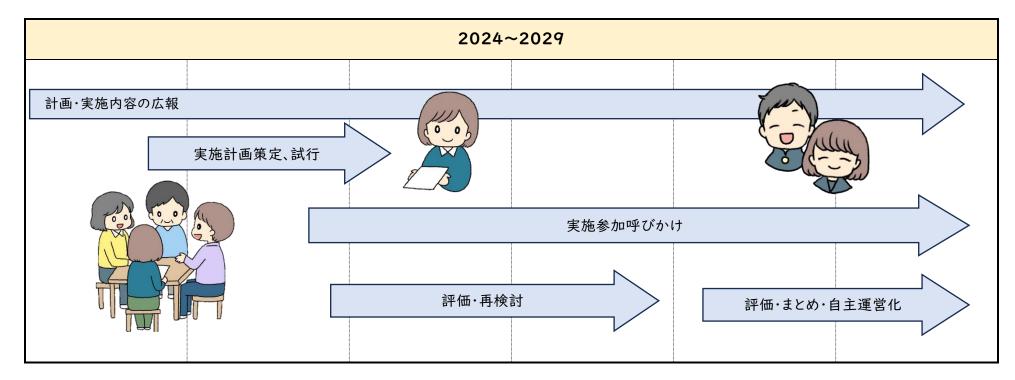




子ども・若者×「活躍」

【実現に向けた年次計画】

取り組み	2024~2029		
地域活動で、子ども若者がメ リット・やりがいを感じられる 仕組みをつくる	・現在地域で行われているメリット・やりがいを感じられる仕組みを調査(実施主体、実施方法、内容、財源など)	・試行後の評価、再検討	・仕組みの自主運営
例:地域活動手帳(ちいかつ 手帳(仮))の作成	・新たな仕組みの検討、子ども若者の参加 ・仕組みをつくる、協力の呼びかけ、試行	・広報、周知、参加の呼びかけ	









地震が起きたとき



わたしたちにできることは

なんだろう?













私たちの「今」と「なりたい姿」

■私たちの「今」



「防災」「防犯」が自分事ではない

防災も防犯も、自分事として日ごろから考えることが大切 しかし、自分事として考えるきっかけが少ない状況

「犯罪」の情報は日々変わってしまう



若い人にとっても、高齢者にとっても「正しい情報」が必要しかし、詐欺や犯罪の情報は変化が激しく、正しく把握することがとても難しい

子ども・若者と地域の接点が少ない



災害時などにお互い助け合えるか、声を掛け合えるか 日中子どもや若者たちの一番近くにいるのは「地域住民」

こんなことを考えました



■私たちの目指す「6年後」

「防災」「防犯」について、発信する



防災や防犯を自分事として考え、子ども・若者たちが 得意な方法で発信し伝えていく活動を目指す

子ども・若者の活動を大人がサポート



子ども・若者の活動をサポートする地域のチームを作る 共に考え、彼らが活動しやすいように支える

6年後のその後も、取り組みが続くように



学校・先生とつながることで活動を継続させていく 6年後の子ども・若者にとっても魅力的な活動を地域の 皆さんと考えていく

子とも・若者 🗙 「防災・防犯」

子ども「若者が主体となって防災」防犯について考え、発信する





犯罪?私には関係 ないかな

学生



うちの子…スマホの使い方 大丈夫かしら

保護者



若い人がこんな犯罪に 巻き込まれているんだね

学生



子どもとスマホの使い方を話し 合うきっかけができたわ

保護者



自分に自信がない

生徒に活躍の機会を作って あげたいけれど…どうすれば

学校



動画を作ったら感謝され たよ。 すごくうれしかった

学生



地域の中に、生徒たちの活躍 の場がこんなにあったんですね

学校



防災?学校で避難訓練 していれば十分でしょ

学生



若者が知らないうちに犯罪に 巻き込まれたりしている…

警察官



災害時に自分たちにも できることがあるんだね

学生



地域の人が学校と我々を つないでくれました

警察官



ボランティア・・・してもいい けど何をすればいいの

字王



日中にフラフラしている 子をよくみかけるよ

白治会昌



いつも使っているスマホがボラ ンティアにつながるんだね

学生



高校生との意見交換会 ができたよ

白治会昌



変な人に声をかけられて 怖かった

小学4



最近詐欺の話ばかりで 怖いね

三岭老



怖かった時に助けてくれる お家があるよ

小学生



「若い人が作ってくれた詐欺の」 動画、とてもわかりやすかったわ

三岭老



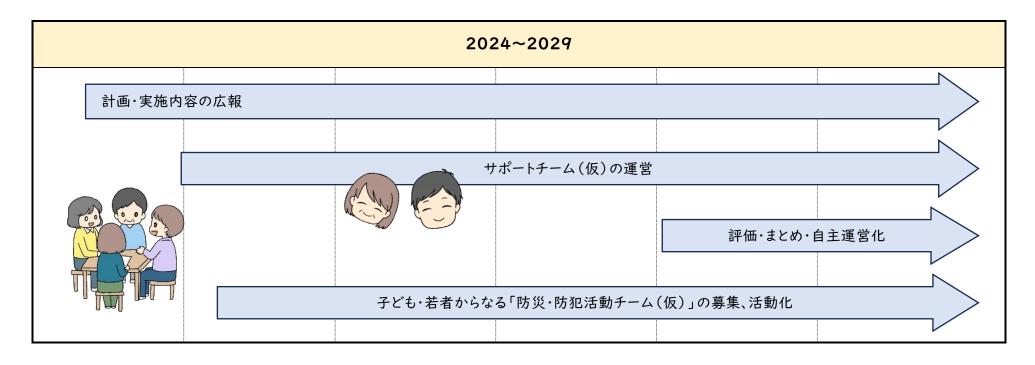
2029 年後



子ども・若者×「防災・防犯」

【実現に向けた年次計画】

取り組み	2024~2029		
サポートチーム(仮)の募集、運営	・下記の「防災・防犯」周知活動に参加して くれる子どもや若者を募る、サポートする ・学校とのつながりを作る	・活動を発表および評価する仕組みや 場の検討	・これまでの活動の評価 ・仕組みの自主運営化
子ども・若者からなる「防 災・防犯」情報の発信	・参加者を募る ・発信の方法を考える、実践	・次の世代への引継ぎ	





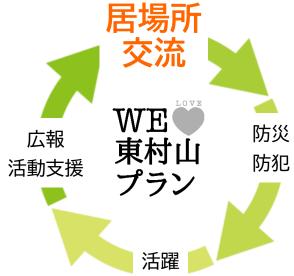
あなたの近くに











ありますか?















私たちの「今」と「なりたい姿」

■私たちの「今」

a.

つながりが薄れてきている

核家族化で、様々な世代とのつながりが薄れてきている 地域の中に、外国籍や障がいのある方もつながれる機会 が少ない

同じ世代のつながり>異なる世代のつながり



周りのことに無関心

友達や家族と関係ができていれば、特に地域の人と積極的につながろうと思わなくても問題ない

自分の生活に関係ないなら、周りの人や地域の人を知らなくても大丈夫



SOSを発信することが苦手

ひとりで頑張ろうとしすぎてしまう お互い様なのに、助けられることに慣れていない

こんなことを考えました



■私たちの目指す「6年後」

いろんな人がいて楽しい「地域」



多世代が交流できるきっかけや機会を増やす 多様な生き方を理解し、お互いの文化を認め合う 言葉の壁を乗り越える

「ありがとうの輪」を広げる



誰もが自分の持っている力を発揮し、誰かの「支え手」に なる

自分が困ったときは、SOSを抱え込まずに発信できる 自分の住んでいる町に目を向け、困っている人に気付く

近くに ほっと できる場をつくる



自分だけじゃない、みんなにとって居心地のいい居場所が 何か考える

大人も子どもたちを安心して送り出せる

※「ほっと」とは、悩みや忙しさから解放され、緊張が解けた状態のこと。心の安らぎ、心が温まるなどの意味で用いています。

子ども・若者 🗙 「居場所・交流」

子どもで若者が関わり、



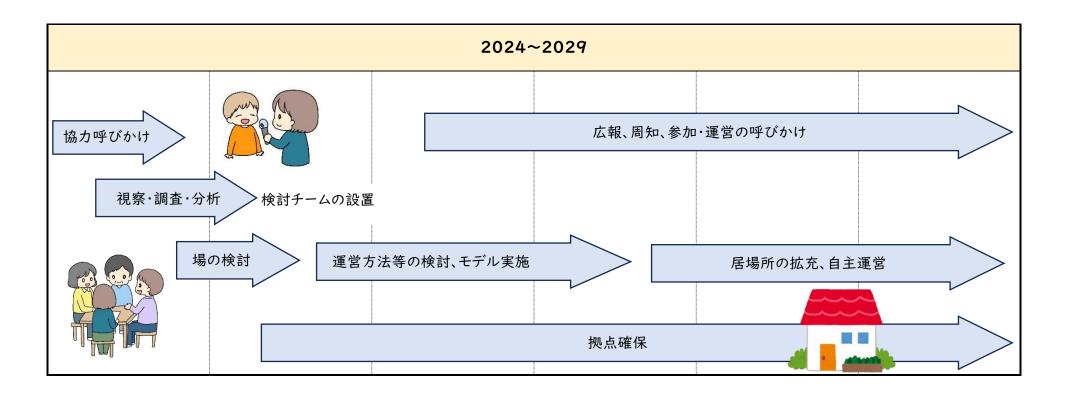




子ども・若者×「居場所・交流」

【実現に向けた年次計画】

取り組み	2024~2029		
ほっと できる居場所づくり	・現在ある様々な居場所を調査(実施主体、実施方法、内容、財源など) ・アンケートに基づく新たな場の検討・協力の呼びかけ、立ち上げ準備	・拠点の確保 ・広報、周知、参加・運営の呼びかけ ・モデル実施	・居場所の拡充 ・自主運営









「ありがとうの輪」を



一緒に広げていきませんか?











広報•活動支援

私たちの「今」と「なりたい姿」

■私たちの「今」

必要な情報が届いていない

活動計画が知られていない 情報に気づかない/関心がない/知る機会がない 必要性を感じられない

→わかり易く伝えているのかな



地域で話し合う、活動を検討する場がない

いろんな人が集まって、話し合いができない 地域で困っていることがわからない 町に合わせた進め方ができない →やってみたいけどノウハウがない、 どこに相談しよう



子どもが主体的に参加できる活動がない

子どもたちの「やりたいこと」を知らない →大人がやらせたいことをやらせていないかな



地域で活動している人はいつも同じ

市内の企業や、社会福祉法人などとかかわりが少ないいままでかかわりを持とうとしていなかった 地域課題や事業所でできることなどをあまり伝えていなかった

こんなことを考えました



■私たちの目指す「6年後」

全町で活動に取り組める



様々な場所で、話し合うこと、連携ができる 地域課題を知ったことから、課題解決の取り組みが始まる 地域に必要な活動が興せる

→自分たちで住みやすい町を作ろう

子どもが地域づくりに参加



子どもが地域に関心を持って、やりたいことが出来る 地域で様々な人が関わりを持つことができる

→ありがとうの関係ができる

地域貢献が進むネットワークづくり



住民と企業、社会福祉法人や NPO との連携が図れる

- →人材、拠点、財源の活用
- →それぞれの地域に必要な活動が興せる



広報•活動支援

【実現に向けた年次計画】

取り組み	2024~2029						
調査	仕組み 実施主体 手法	・調査(チーム、エリア)・リスト化(広報先)・居場所把握	・リスト・情報の更新		リストの更	新・活用	
広報	①計画全体 ②実践広報 手法、媒体の検討	・子ども向け・企業向け・地域向け・各チームの活動把握	・手法・効果の検証		検証を基に、	修正、実施	
子どもの 参画	推進委員会 活動チーム参加	参加の呼びかけ (推進委員会・チーム)				22222	
評価	推進委員会の設置 ロールモデル化	モニタリング 各チームの活動把握		モニタリング 2	中間報告		
企業の 参画	資金 場所 人材 資材	・リストを基に アプローチ					

計画の進め方



ここまで第6次地域福祉活動計画の目指している4つの取り組みについて説明を してきました。この計画を具体化するためにどのように進めていくのでしょうか。 その仕組みについて次のページでご説明します。



活動計画についてアンケートを実施しました (第6次計画·大岱小学校)





あいさつ運動代表者交流会で、 各町の取り組み情報交換を行って います(第5次計画)

活動の情報交換や 地域課題の取り組みについ て意見交換を行っています (萩山町地域懇談会)



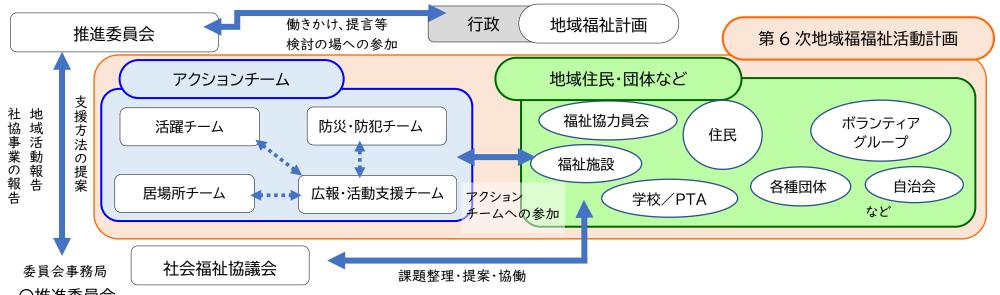
地域で組織して取り組んでいます (第5次計画 WE ♥ 恩多町プラン推進会)



活動の情報交換や 地域課題の取り組みについて意見交換を 行っています(野口町地域懇談会) (第5次計画~)

計画の仕組み

『推進委員会』を設置して、住民の皆さんと関係機関、施設、社協の職員などが、力を合わせて計画を進めていきます。



〇推進委員会

- ①計画全体の進捗状況・内容などを、アクションチームや社協(事務局)より報告を受け、定期的に評価・分析を行い、取り組み方についてアドバ イスします。
- ②アクションチームや各地域の話し合いの場等に参加し、計画を推進します。
- ③アクションに限らず、地域住民が求めるニーズの把握に努め、解決に必要な取り組みを検討します。また、必要に応じて、行政等への働きかけや 提言をします。

〇アクションチーム

アクションンごとにチームを作ります。6 年後の目標達成に向けて、考えられる取り組みを具体化し、実践します。チームメンバーの構成は取り組み 内容に合わせて、募集します。推進委員会へ報告を行い、アドバイスをもらいながら取り組みを進めます。

〇社会福祉協議会

活動計画の取り組みができるよう、話し合いの場(地域懇談会など)の設定・運営を行います。アクションチームと地域が連携を取れるよう支援し ます。推進委員会へ報告を行い、意見交換等を経て今後の進め方について検討します。 WE[→]東村山プラン

資料編

「わたしたちの東村山」



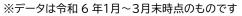
東村山市全体

人口	151, 751人
男性	73,834人
女 性	77,917人
世 帯 数	76, 295 世帯
年少人口(15 歳未満)	17, 295人
高齢化率 ★	27.07%
外国籍市民数	3,710人
身体障害者手帳所持者数	4,818人
愛の手帳所持者数 ★	1, 276 人
精神障害者保健福祉手帳所持者数	2,125人
生活保護受給世帯数	2,474世帯
自治会数	282 自治会
自治会加入世帯数	30,657世帯

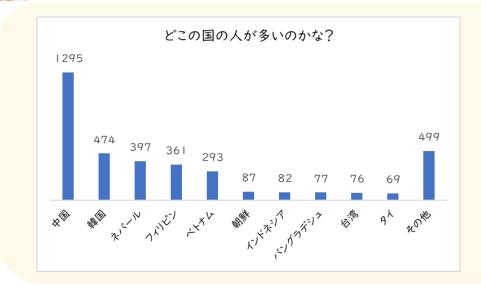
- ★高齢化率とは、65歳以上人口が総人口に占める割合のこと
- ★愛の手帳とは、東京都が知的障害者(児)に交付する手帳

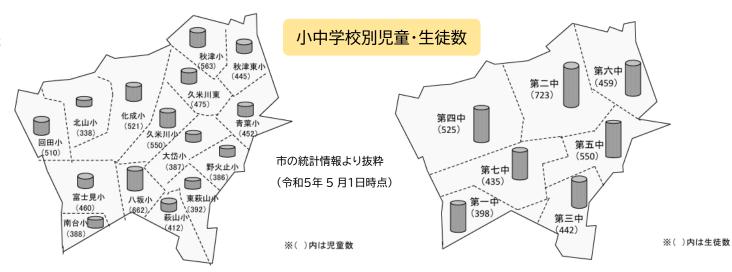
要介護(支援)認定者数

要支援1	1301人
要支援2	1606人
要介護1	1739人
要介護2	1301人
要介護3	499人
要介護4	877人
要介護5	542人

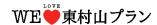


※ただし、自治会に関するデータは、令和6年5月時点、手帳所持者に関するデータは、令和4年4月時点





◎詳しい市の統計情報は、東村山市のホームページ→市政情報→統計データからご確認できます



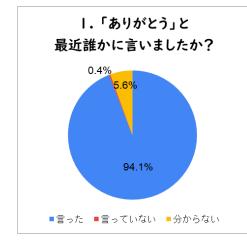
第6次地域福祉活動計画を策定するにあたって、策定 委員だけで課題を検討した訳ではありません。

今回、計画の対象としている「子ども・若者」(小学生~20代)の皆さんが日常生活の中でどのようなことを考えているのか、東村山市についてどのように思っているのか、アンケートをとりました。

タイトルは、「教えて!!東村山をよくするために」です。 ここでは、そのアンケートの回答の一部をご紹介します。



子ども・若者アンケート「教えて! 東村山をよくするために」 回答抜粋



- 何かをやってもらった時
- ·一緒にお店について来てくれた時
- ·嬉しい声かけをしてもらった時
- ・感謝の気持ちがあるとき
- ・物を買ってもらった、お土産やプレゼントを もらったときなど
- ・毎日言ってるので意識はしていない
- ・自分のしていることを手伝ってくれた時
- ・分からないことを教えてくださった時 など



- ・手伝った時 ・親切にした時
- ·なにかをしてあげた時
- ・洗濯物を干した時に
- ・友達からは相談にのったとき
- ・困っているところを助けたとき
- マッサージをした時
- ・洗濯物を取り込んだ時
- ・毎日言われているので特に意識していない
- ・夜ご飯を作った時 ・妹のお世話をした など

3. 東村山でどんなイベントや行事があったら参加してみたいですか?

・お祭り

- ・工作、プール、ボッチャ
- ·花火大会
- ・フェス(アーティストも食べ物も) ・お金をくれるイベント
- ・音楽コンサート
- ・1~2 泊でキャンプ、自然活動、
- ・スポーツの交流戦
- ・冬に開催するお祭り

- ·ママチャリレースのような競うもの

 - 気軽に参加できるフリマ
 - ・チロリン村で、天体観測会、お話会 (怖い話、読み聞かせ) など









4. 東村山に何か欲しいもの、あるといいなと思うものはありますか?

- ・ショッピングモール

・中高生向けの大きな公園

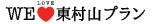
- ・ホテル、花火大会、温泉
- ・ゲームセンター
- ・球技ができる公園

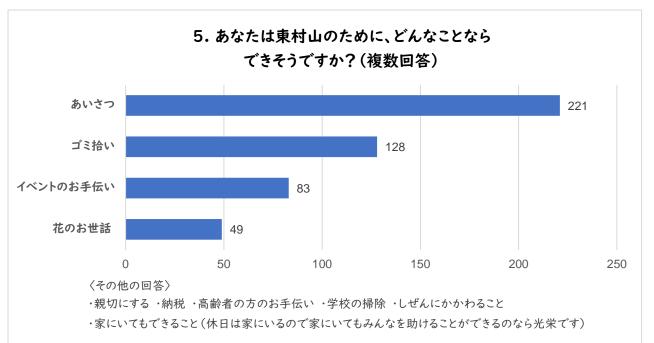
・自習室

・温泉

・映画館

(最近、近くの公園が立ち入り禁止になった) など

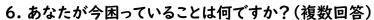


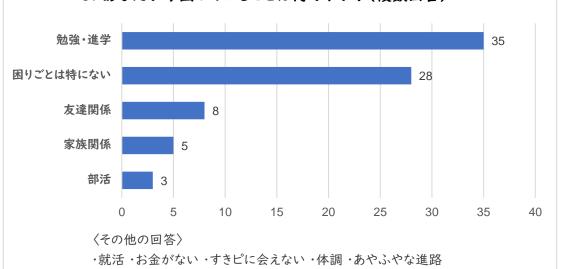


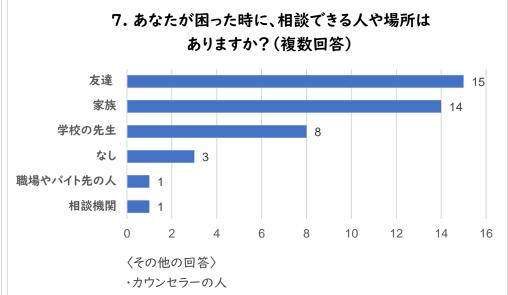


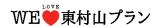




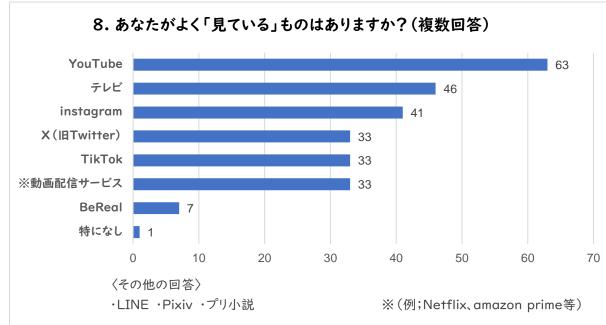




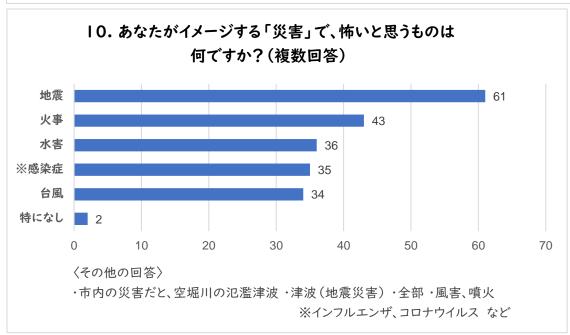


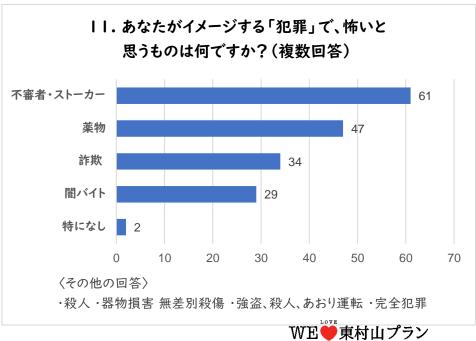


子ども・若者アンケート「教えて!東村山をよくするために」回答抜粋②~中学生以上に聞きました~









第6次地域福祉活動計画 策定委員

氏名	所属団体名
室田 信一	東京都立大学 准教授
板垣 辰男	民生·児童委員協議会 東部地区 副会長
吉田 洋子	民生·児童委員協議会 西部地区 副会長
田島 博志	ボランティア活動推進委員会
小山 茂	ボランティアグループ懇談会
阿部 和子	NPO すずめ ころころの森 施設長
鳥本 洋一	東萩山町会 町会長
梅原 久子	くぬぎ自治会 自治会長
大迫 和江	NPO 樹会 代表
荒川 悦子	第5次地域福祉活動計画 重点アクションチーム③
渡会 博子	SLP センターアーク センター長
田添 敦孝	(R5.4~)
荒井 隆夫	東村山生活実習所 所長
徳山 滋久	はるびの郷 副施設長
海老原 努	北部地域包括支援センター センター長
日沖 敬一	一般公募委員(社協会員)
佐藤 由香	一般公募委員(社協会員)
多田 尚子	東京都社会福祉協議会 地域福祉部統括主任
羽生 孝明	健康福祉部地域福祉推進課 主査
上野 広照	子ども家庭部地域子育て課 課長補佐
江藤 佳子	東村山市社会福祉協議会 常務理事
小島 道子	野口町福祉協力員会 地区長
武者 吉和	東村山市社会福祉協議会 事務局長

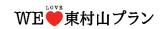
(2024.3.31 現在)

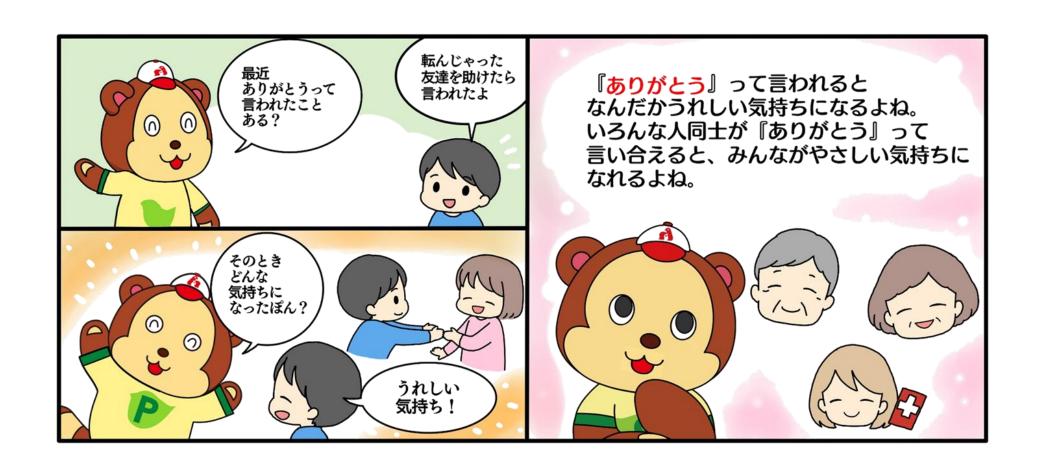


事務局

徳田 尚美	法人経営・まちづくり推進課長
葛野 章	生活支援課長
瀧澤 純	法人運営係 企画調整担当
安部 加奈	法人運営係
越ケ谷 光洋	まちづくり支援係
長井 邦光	まちづくり支援係
稲森 直孝	基幹相談支援センター
弓野 幸会	地域包括支援センター
中里 友佳	権利擁護係

(2024.3.31 現在)





表紙の言葉;世界中の「ありがとう」

 漫画・イラスト;弓野 幸会(社協) いらすとや Copilot(AI)

WE[™]東村山プラン

WE・東村山プラン

東村山市第6次地域福祉活動計画

2024年4月

東村山市第6次地域福祉活動計画策定委員会 (事務局)東村山市社会福祉協議会

〒189-0022 東京都東村山市野口町 1-25-15 TEL 042-394-6333 / FAX 042-393-0411 Mail soumu@hm-shakyo.or.jp